

申請書記入要領

以下の記入例を参考に詳しく記載してください。あくまで一例ですので、「認定コレクション申請記入例」(<http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/nc/>)も参考に必要に応じて行数を増減してご記入ください。字体はMSP明朝(12ポイント)とし、数字、アルファベット、単位、記号等は半角で入力してください。

コレクションのテーマ

例1)近代に作出されたサクラの栽培品種 例2)ペラルゴニウム属のコレクション

コレクションの概要

例1)1935年に開催された愛知県勸業博覧会で展示されており、その後、当園に譲り受けたサクラのコレクションを栽培展示しているものである。2002年には岩倉市の登録記念物に指定されている。

※実際の記入にあたっては、「ナショナルコレクションの申請書と保有植物リスト一覧」の内容を参考にし、なるべく詳しく記述してください。

例2)ペラルゴニウム属の野生種、園芸品種(通称ゼラニウム、ペラルゴニウム、アイビーゼラニウム、センテッドゼラニウムなど)および変わり葉ゼラニウム(古典品種)などを収集。特にゼラニウムと変わり葉ゼラニウムは大正から明治時代に流行し、現在消失の危機に瀕している品種を維持している。

※実際の記入にあたっては、「ナショナルコレクションの申請書と保有植物リスト一覧」の内容を参考にし、なるべく詳しく記述してください。

申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数

(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル記入要領」にしたがい提出)

例)野生種(原種)100種、園芸品種440品種。

申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

例)ゲスネリアード協会が発行している目録では72品種が紹介されており、そのうち当団体では74%にあたる53品種を保有・展示している。

注)申請団体・申請者が保有する品種数と、現存するおおよそ全ての品種数の比較ができるように記入してください。現存数が不明な場合はその旨をご記入ください。

コレクションの栽培管理状況(所在地が分散している場合は、ここに全てを列記)

例1)コレクションの所在地において、大株については露地栽培を行い、実生1~3年生株については鉢植え栽培を行っている。

例2)通常は4名の技術者で株分け、移植、採種等の管理を行っており、薬剤散布のみ(株)大阪園芸に委託管理を行っている。

例3)当園の温室で鉢栽培。展示担当者(鈴木)のみが栽培管理を一任されている。

例4)複数会員が分散して品種群を管理している。主たる栽培管理地は京都市左京区静原1-2-3(申請時の代表的な所在地)であるが、その他に同右京区高雄4-5-6、同北区西加茂7-8-9でも分散して管理している。

コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

例1)2000年以降の導入記録は揃っているが、それ以前の記録は抜け落ち箇所がある。デジタルファイルで管理している。

例2)導入記録を紙ベースおよびデジタルファイルの両方で情報を記録しており、散逸の危険回避に努めている。

コレクションのラベル表記状況(栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど)

- 例1) 展示用のラベル表記は正確なサイン(樹名板)を心がけているが、バックヤードでの栽培時には簡易表記にしているものもある。
- 例2) 個々の鉢では、栽培管理用と展示管理用のラベルを共通化しており、個体番号と学名、品種名のみを耐光性を考慮してテブラ印刷した上でラベルに貼り付けている。

コレクションへの協力団体・協力者(種名の同定、導入など)

- 例1) 変異が起こりやすいゼラニウムに関しては、導入元である旭植物園(愛知県岡崎市)の店主に同定いただいた(2013年)。野生種は海外の植物園から種子を導入したものが多く、開花時に文献で特性を確認できたものを保存している。
- 例2) 伊藤五郎氏が1950年代にアメリカのワシントン・ナーセリーより導入したアザレアのコレクションを1976年に継承したものである。
- 例3) 品種の同定には、東洋園芸愛好会の鈴木拓也氏の協力を仰いだ。

コレクションの長期保存のための方策と体制(増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等)

- 例1) 老化した個体の枯死およびウイルス汚染に備えて、全ての品種において常に3個体以上の挿し木苗を確保している。なお、当施設での永続的な保存に若干の不安が残るため、日本植物園協会加盟園などへの危険分散も検討したい。
- 例2) 丈夫な品種については1鉢を保有し、虚弱な品種についてはできるだけ増殖して複数株を保有するほか、個人愛好家にも分譲している。当園での栽培技術の継承はできていないため、日本植物園協会加盟園への危険分散を視野に入れている。

コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績(研究等を含む)

- 例1) 本コレクションを用いて、当園内の展示室で「早春のツバキ展」を1982年より24年間に渡り開催し、通例40品種、60鉢を展示する。
- 例2) 本コレクションを用いて、当園での「ゼラニウム展」を毎年開催している。
- 例3) NHKの趣味の園芸(1998年3月号:P54-55)に本コレクションが掲載された。
- 例4) <http://www.tmbg.lg.jp/>にて本コレクションの品種一覧と開花情報を広報している。
- 例5) 変わり葉ゼラニウムの栽培史について調査し、結果を当園の紀要(32号)で報告した。

※認定されたナショナルコレクションの情報(非公開および個人情報を除く)は、日本植物園協会のホームページ上で公開し、また報道資料等、当協会のナショナルコレクションに関する事業に使用できるものとします。その他の情報の公開や使用については、申請者との協議によって決定することとします。以上の使用範囲に同意の上、申請をお願いします。